

# 廃墟探訪

※敷地や建物への無断での立ち入り、物品の持ち去り、破壊行為等は犯罪です

人の住まなくなった住居。営業することなくなった店舗。動かなくなつて久しい工場。ふと見回すとあちらこちらに存在する「廃墟」に気が付きます。以前は真新しかったであろう建物が徐々に崩れていく姿、生い茂る植物。所有者が管理し、いずれ取り壊されて更地になり、また新しい建物が建つのでしょうか。あるいは再び整備されて動き出すことがあるのでしょうか。しかし、中にはそのままの営みからはずれ、時間の経過とともに自然の中に埋もれていく、そんな「廃墟」が存在します。

産業遺産として博物館的な存在になる元「廃墟」もありますが、解説があり、安全柵で仕切られ、ガラスケースに収まっているような、そんなものに「廃墟」としての魅力はありません。時間から人も人からも忘れられ、ただあるがままに朽ちていく、自然環境を破壊してまで作った建造物が再び自然に還っていく、その姿こそが魅力です。誰のために作られ、どんな人達が生活し、そしてなぜ捨てられたのか、想像力をかき立てられます。

## 湖南小学校後山分校

諏訪地方でも有名な廃校舎です。1803年(享和3年)に諏訪藩の長善館として開設されて以降、後山地区の教育拠点として活用されてきました。現在の建物は昭和23年に建設、30年に増築されました。人口減による廃校は55年になります。

廃校後も地区の公民館として利用されてきましたが、近くに新しい公民館が完成したことや建物

## 柵平屯所

後山分校から県道416号線を箕輪ダムへ向かうと、道沿いに数件の家屋が建つ場所へ出ます。柵平です。

林業や農業、養蚕業を主な産業に十数件の軒を連ねましたが、過疎が進み昭和47年に全戸移住、廃村となりました。現在ほとんどの家屋が廃墟となり倒壊寸前の状況ですが、数件は人が手入れに戻っているのか、花が咲

の老朽化もあって閉鎖されています。

「古い木造校舎」と言われて思い浮かべるイメージそのままのような建物で、外からでも山の斜面にコの字型に配された建物、木造校舎の外壁と赤い屋根、縦長に窓枠のとられた階段室、よきつと伸びた給食室の煙突など見どころが豊富です。山あいの古い木造校舎で独特の雰囲気があり、映画のロケ地としても使

き野菜が売り、人の営みを感じられます。



集落の象徴的な建物がこの火の見やぐらと消防車庫です。諏訪市消防団

## 旧諏訪市

### 清掃センター

現在稼働する諏訪市清掃センターに隣接する、旧施設です。昭和59年に稼働を開始、新センター開設に伴い93年にその役目を終えました。

今年度中の全部解体が決まっています、すでに一部設備は撤去されています。

ごみの焼却施設だけあって建物が巨大です。大きなドーム形の屋根、木立を突き抜けて伸びる煙突、錆び付いた焼却炉、今にも崩れそうな灰の運搬設備など見どころは満載なのですが、現在稼働している清掃センターに隣接しているという立地もあって人の動きが一日中ありますし、物置に使

## ホテル天望

下諏訪町の旧中山道沿い、高台に位置するホテルです。本当の名称は「ホテル天望園」ですが、屋上に設置された看板からは「園」の文字が落ちてしまっています。

諏訪湖の対岸からでも存在が分かる建物で、あの場所にあんな大きな建物があったか、あれは何だろうかと疑問に思っている人も多いのではない



われていたり、解体作業が行なわれていたりもします。老朽化に伴い壁などが崩れかけていて、危険な場所ももちろんあります。

映画のロケ地としても使われ、廃墟好きの探訪先として取り上げられることもありましたが、まもなく完全に姿を消す旧センター跡地には、木材チップの保管庫などが建設される予定です。

でしょうか。

敷地の入り口は草が生い茂つて人の出入りは無さそうですが、遠目に見える建物はガラスが割れていないし落書きもないという、荒れているようには見えないものです。

かなり以前から営業はしていませんが、敷地の入り口には新しい鎖がかけられ、防犯カメラ作動中の文字、警備会社のマークが目立つように付けられています。きちんと管理されていることが分かります。もちろん立ち入りは禁止です。

もう少し近くまで行って様子を見たい、できれば中がどうなっているのか見てみたいという誘惑にかられる魅力的な廃墟ですが、残念です。

### 立場川橋梁



明治36年に作られ、昭和35年まで実際に使われていた中央本線の旧線にある鉄橋です。富士見町内では富士見駅―信濃境駅間の新線が、55年に開通したため、旧線関係の橋やトンネルが使われなくなりしました。

国内に現存する、数少ないボルチモアトラス構造という独特の骨組みを持った鉄橋だそうです。当時の最先端技術で作ら

### 旧国界橋

甲斐と信濃の国境の橋です。昭和4年に竣工、11年に現在の新国界橋が完成するまで活躍していました。全国に国界橋は数あれど、甲斐と信濃の間ではここだけです。

鋼鉄製、プレートガーダー式の特徴的な外観をした橋で、現在の下葛木信号付近から釜無川を最短で渡り、旧国道へつながるように作られています。川を最短で渡ること



れていて、枕木などは撤去されましたが、石組みの土台や本体の鉄骨といった現在も崩れることのないその威容を見ることが出来ます。

全体に錆は浮いていますが、橋梁以外の路線跡には枕木も残っています。草刈りや立ち入り禁止の柵などある程度の手入れは続けられているようです。橋の前後には廃トンネルもいくつかあり、鉄道の廃路線ファンにも注目の場所です。

すぐ近くに新線の巨大なコンクリート製の橋もあり、この橋と並んで走る姿を写真に収めることもできます。簡単に安全に見る事の出来る近代鉄道遺産として、お薦めのポイントです。

を意識しすぎたためか、旧国道は橋を渡ったところで、山肌に沿うようにほぼ直角に曲がっています。この構造を改善するために、現在の新国界橋は川を斜めに越える形になったのだらうと思われ

ます。国道から見た釜無川の対岸は山梨県ですが、旧国界橋を渡った辺りは猿の生息域のようです。国道沿いからは分かりにくいのですが、橋の手前側に電流を流す電気柵が設置され、往来できないようになっています。

この旧国界橋のすぐ近くに、さらに古い橋の跡があります。明治30年に作られた木製の、こちらも国界橋という橋の跡だそうです。

### 乙事トンネル

中央本線旧線の廃隧道です。隧道はトンネルのことです。昭和35年の旧線廃止とともに役目を終えました。明治時代に石積みとレンガで作られ、全長約108メートルです。



場所は富士見町の町民広場近くになります。当時線路が走っていた場所には整備され、グラウンドになっています。線路の面影はまったくありませんが、公共施設の間近に

ここも中央本線旧線の廃隧道です。全長は約110メートルと短いトンネルです。乙事トンネルとは町民広場のグラウンドを挟んで、西側に位置しています。



入り口には柵が設置され、立ち入りは禁止。内部では出水による水没、天井の一部崩落があり危険です。埋立てはされ

ていないため、反対側にも柵が設置されています。

トンネルがある珍しい風景となっています。

現在のこのトンネルの西側は写真のように柵が設置され、立ち入り禁止の措置が執られています。内部は出水による水没もあり危険です。さらに東側出口付近は埋め立てられ、通り抜けも不可能です。

丘陵地を走る鉄道の廃線跡ということもあって、この付近には複数のトンネルがあります。乙事トンネルからグラウンドを挟んでその反対に姥沢トンネル、姥沢トンネルを抜けたところに立場川橋梁があり、さらにその先に瀬沢トンネルがあります。瀬沢トンネルは現在水路として利用されています。

ここは中央本線の一番目のトンネルで、その「乙番トンネル」の名称が一部で有名です。曰く白衣の老婆の幽霊を見た、いや男性の幽霊を見た、近くの鉄橋から飛び降りた自殺者の幽霊が出た。

“軽はずみに近づいてはいけない”。そう、ここは心霊スポットとして知られている場所です。

もつとも鉄橋からの飛び降り自殺の話はお約束です。廃トンネルに幽霊がという話もお約束です。入り口目の前にはグラウンドがあり、道路が走り、周辺は日常使われている場所です。雰囲気のあるトンネルではありませんし、噂話も多数ありますが、どこまで本当の話かは分かりません。

### 清幸荘キャンプ場

白樺湖畔で少なくとも20年近く前までは営業していたキャンプ場です。台程度は止められる駐車場があり、3張程度はテントを設営できる、それなりの規模を持ったキャンプ場でした。

現在管理棟の建物が崩壊寸前の状態です。表から見るとそれほどありませんが、裏側は建物自体が歪んで見えるほどで、いつ崩れてもおかし



ここもある意味中央本線旧線にまつわる廃墟です。場所は旧線上、現在は線路跡しかありませんが、富士見町境池袋、池生神社のすぐ近くに位置します。

とんねるの里は、喫茶店の名称です。廃線跡の線路の上、古い車輛をそのまま店舗に見立てた店だったようです。すでに閉店していて、廃棄された車輛はそのまま、近くには関連する施設のようなものが朽ちかけています。

この車輛は富士山麓鉄道が80周年を記念して開発したモハ3100形というものだそうです。全部で4両しか作られなかった珍しい車輛なのです。

家財道具が建物周辺に放棄されていたり、内部には様々な生活用品、日用品、雑貨類が散乱していたりと、いかにも慌てて棄てていきましたと言わんばかりの惨状です。

諏訪地方は霧ヶ峰、蓼科湖、白樺湖など観光地を複数抱えています。当然各観光地には多数のホテルや旅館が建ち並んだのですが、景気の低迷や施設の老朽化から廃業が後を絶ちません。

廃業すれば残されるのは大規模な建物です。それらが廃墟化すれば、安全性はもちろん、観光面でも防犯面でもやっかいな存在になります。一部では地域住民や行政から建物撤去に向けた動きが出ているようです。

が、そのうちの2両が、なぜかここにあるということになります。同型のうち、3103と3104の2両は事故により廃車となつていますから、型番3101と3102というこの2両が、現存する最後のものということに。本当になぜ富士見町で喫茶店の店舗になっていたのか、不思議です。

近くには旧線で最も小淵沢よりのトンネル、池生隧道があります。

